

## 熊本県立玉名工業高等学校 令和2年度(2020年度)学校評価表

1 学校教育目標
----------

『工業人たる前によき人間たれ』をスローガンに掲げ、「明朗 誠実」「自律 協力」「勤勉工夫」「健康 安全」の教育綱領に則り、心豊かで個性に富み、活力にあふれ、礼節をわきまえた人間性の確立に努め、我が国の産業の振興や地域の発展に寄与できる実践的技術者を育成する。

2 本年度の重点目標
------------

1 安心安全

- ・ 防災教育、安全教育の推進
- ・ 不祥事ゼロ+いじめゼロ+生徒・職員の交通事故半減
- ・ 5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の徹底

2 夢実現

- ・ 授業の充実
- ・ 進路決定 100%
- ・ 入学志願者確保
- ・ 資格取得の推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	広報活動の充実	・ ホームページの充実 ・ マスコミへの発信	・ 一日平均700回のアクセス数の増加 ・ 月平均一回の掲載	A	アンケート結果では、生徒、保護者、職員共に高評価で、広報活動は十分図られたと言える。またマスコミへの発信も行い、新聞等にも記事が掲載された。
		安心安全な学校	日々変化する感染症対策に対応した運営	新型コロナウイルス対策に係る指導の充実と感染者0の達成	A	健康観察や昼食指導をはじめ感染拡大防止対策を徹底して行った結果、感染拡大を抑えることができています。
	学校改革の視点に立った学校運営	職員の負担軽減のための校務改革及び生徒指導の充実	・ 超過勤務時間縮減のための校務の効率化と組織的な取組	・ 職員の意見を反映させた取組の推進	B	11月より働き方改革支援アドバイザーに指導助言を仰ぎ、SKプロジェクトで検討し職員の意見を反映させ働き方改革を順調に進めている。
			・ 未然防止に努める生徒指導の取組	・ 生徒主体の取組の推進により生徒指導問題の減少	B	昨年度と比べ生徒指導問題数はほとんど変わらない状況であった。規範意識を高めるために、職員間の連携を図る必要がある。
入学定員の確保	入学希望者の増加	入学希望者確保 前期1.9倍 後期1.1倍 (昨年度前期1.67倍、後期0.89倍)	・ 中学校訪問による学校紹介 ・ 体験入学の改善 ・ 学校PR活動	B	中学校訪問では本校の魅力発信を行い、動画による紹介を行った。体験入学は9月に延期となったが、各科の魅力を紹介できた。さらに、別日の放課後にも体験入学を開催した。前期選抜1.68倍、後期選抜0.86倍となった。	

学力向上	教科指導の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導技術の向上</li> <li>・専門性の向上</li> </ul>	授業に関する興味関心を80%以上にする。(昨年度77%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価の実施</li> <li>・研究授業への積極的参加(授業改善)</li> <li>・授業改善研修</li> </ul>	B	授業に関する興味関心は74%であったが、積極的に授業に参加し、意欲的に取り組むが84%であった。1、2学期の研究授業週間を実施、授業アンケートを使って授業改善を行った。
	基礎学力 積極的な学習への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自学への取組向上</li> <li>・生徒の理解度の把握と学習意欲の喚起</li> <li>・学習習慣の定着</li> <li>・欠点者数の比較</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・学習への取組向上</li> <li>・欠点者数の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力テスト等による基礎学力の把握</li> <li>・授業時間数の確保</li> <li>・定期考査へ向けた環境づくり</li> </ul>	B	基礎学力診断テスト、学力コンテストを実施した。臨時休校期間中の家庭学習用の学習教材とFormsや学習計画表を使った学びを取り入れた。
キャリア教育(進路指導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職に就くことを前提とした進路指導の充実</li> <li>・生徒一人ひとりの多様な進路実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉工手帳の積極的活用と活用能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「玉工手帳」を活用し、予定を立ててから行動できるようになった」と答える生徒70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉工進路通信の発行(玉工手帳の活用法・進路情報の提供等)</li> </ul>	B	玉工進路通信を適宜発行したが、月1回以上の発行を目指したい。玉工手帳を生徒が活用できるよう、教師側の手立てが必要である。各クラス、各部で活用する指導体制を整えたい。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の充実(人から人材への3年間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自己管理能力、計画力、改善力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学希望者及び求職者の最終合格・内定率100%達成</li> <li>・初回受験合格率80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別進学指導の実施</li> <li>・各学年において各種検査の実施及びセミナー等の実施</li> <li>・全職員による面接指導の実施</li> <li>・進路講話及び進路説明会の実施</li> </ul>	A	新型コロナウイルスの感染拡大対策を講じながら、職員の協力のもと3年生の進路先を確保することができた。3年生の生徒及び保護者に対して、進路説明会を行うことができなかった。オンラインや密にならない進路情報の提供が行える方法を模索中である。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	正しい制服の着用と地域に信頼される生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装や身だしなみの大切さについての理解</li> <li>・地域に信頼される行動の定着(服装検査の合格率を各クラス90%以上とする)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装頭髪検査に向けた事前指導の徹底</li> <li>・地域に信頼される行動を生徒間で身につける。</li> </ul>	B	1月時点で全体平均は約80%であった。18クラス中6クラスが年間平均90%以上の合格率となった。3学年の合格率が90%を超え、進路意識の高さによる結果と推測される。
		遅刻の減少	遅刻する生徒の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HRによる担任指導及び生徒指導部による正門での</li> </ul>	B	無遅刻の割合は、昨年度99.5%(3月末)、今年度99.3%と0.2%減少した。また、学年別で見ると、1学年(

				声かけ ・遅刻の多い生徒への声かけや保護者との連携		99.5%)、2学年(98.9%)、3学年(99.6%)であった。10名の生徒が年間10回以上遅刻していることが課題である。
	交通安全教育の推進	自転車運転マナー及び原付バイク運転マナーの向上	・通学路における交通指導 ・自転車二重ロックの徹底 ・交通事故の前年比30%減 ・交通違反の30%減	・現地での登校指導の充実 ・二重ロックの点検と指導 ・原付通学生の定例会の定着と効果 ・担任指導や全校集会等による周知徹底	B	・通学路における現地指導は範囲を拡大し定期的に実施した。 ・自転車の二重ロックの呼びかけを徹底しているが、全体の実施率は86.5%であった。 ・交通事故は昨年度(原付14件、自転車7件)に比べると減少した。今年度(原付2件、自転車4件) ・原付の交通違反は、昨年度の7件から16件と大きく増加した。一時停止等の軽度の違反によるもので、原付バイク許可の生徒への定期的な指導が必要である。
人権教育の推進	人権・同和教育の推進	・研修の充実と推進体制の強化 ・指導方法の工夫と改善 ・学習環境の整備・充実と指導者の育成 ・新型コロナウイルス感染症に対する人権的配慮の深化	・学期に最低1回程度の校内職員研修を実施 ・人権教育便りの配布(学期に1回) ・校外の各種研修会への参加を推奨(2回以上参加65%)。校外研修が困難な場合にはレポート研修を実施する) ・学年に応じた、効果的なLHRの実施	・人権教育推進委員会で、校内職員研修の内容を検討 ・人権啓発、同和問題への関心を持つよう、最近の問題を提示 ・校外研修における全職員への参加の呼び掛けとレポート研修におけるレクチャーの実施 ・人権教育推進委員会や学年会で内容を協議	B	今年度は校外研修を行わず、校内研修でレポート研を行い、自らの教育実践を見つめ直す機会となった。「いじめや差別を許さない環境づくりに努めている」と97%の教師が回答し、「人権教育に積極的に取り組んでいる」と生徒、保護者ともに肯定的な回答が90%を超えた。ただ、研修等が計画どおりに進めることができなかった。
	学力保障及び進路保障の支援	確かな学力を身に付け、進路を保障する取組の強化	すべての教科で人権・同和教育の視点で学習指導、生徒指導の展開(就職内定率100%)	進路指導部や各学年と連携し、全職員が生徒一人一人を大切にする学習指導、生徒指導の体制を強化	A	進路指導部が主体となり、各学年、教育相談部も含め全職員で生徒の進路保障に向けて取り組むことができた。就学支援サポーターやSC、SSWも活用し進路保障の取組が強化できた。
	命を大切にすることを育む指導	自尊感情を高める指導の強化	すべての教科で人権・同和教育の視点で命を大切にする授業の展開	H R活動やすべての教科の授業での取り組みとLHRにおける授業を2回実施	A	各学年でLHRの時間を活用し、命を大切にすることを育む指導を行えた。特に1年生では「SOSの出し方に関する教育」に取り組んでおり、

						自尊感情を高める実践が進んでいる。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の推進	いじめにつながらない、学校全体の土壌づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の教育活動における注意喚起及び情報提供等の呼びかけ</li> <li>・生徒の小さな変化を見逃さない職員間の情報共有といじめを許さない体制及び環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員がいじめ防止の研修を実施し、いじめに対する感性の高揚を図る。</li> <li>・INI（いじめをなくす委員会）による啓発活動</li> </ul>	A	学期毎のアンケートによりいじめの実態把握を行い、いじめ防止対策委員会で検討し、早期対応を行うことができた。教育相談部及びSC、SSWとの連携も進み、組織的対応が確立されている。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域連携	防災型コミュニティスクールの取組	地域住民と学校関係者、行政の協力体制の確認及び防災訓練による連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の実施</li> <li>・防災マニュアルの作成及び市内の他高校との情報共有</li> <li>・防災教育の設定</li> <li>・行政及び警察・消防との災害発生時の初期対応と連携体制の確認</li> </ul>	B	地域住民の協力で協議会を開催し、地域や行政との協力関係を築くことができた。集会ができなかったため避難訓練は中止したが、シェイクアウト訓練を行い、生徒の防災意識を高めることができた。
		ボランティア活動の推進	イベントへの参加を通して地域住民との連携	ボランティア活動を通して学校と地域を繋げる。	B	イベントの多くが中止になったが、豪雨災害被災地へのボランティアや感染防止対策の作品製作を行い、生徒の意識は高まっている。
工業教育の推進	ものづくり教育の充実と魅力発信	地域や関連企業との連携	地域や関連企業との連携により、ものづくり教育を充実するとともに職業人としての意識を高める。	工業関連企業との連携による現場見学、ガイダンス、実技指導等を可能な限り実施	B	今年度は、1年生の工場見学やガイダンス参加ができなかった。しかし、2年生のインターンシップは3日間実施し、職業意識の高揚につなげることができた。
		専門分野への知識や技能の深化	ジュニアマイスター取得昨年度比5%増と全工協より学校表彰。	ゴールド、シルバーだけでなく、ブロンズの認定の推奨	B	休校による1学期の受験中止や授業時数減少が、2学期の受検に影響した。今年度後期限定で1・2年のブロンズ申請が可能であり、前年比20%増であったが、ゴールド、シルバーの年間総数は半減した。
		魅力発信	・ホームページへの学校の日々の様子の更新を週3回程度、定期更新とともに実	・地域や中学生へ向け本校の様子や各科の学習内容をホームページで紹介し、入	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを利用した定期的な各科の紹介や文化祭での各科のものづくり体験を通じた工業教育の魅力を発信できた。</li> <li>・コロナ感染症対策と</li> </ul>

			<p>施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生が入学してみたいと思う、学習内容やものづくりを発信</li> <li>・地域イベントへの参加を通して、本校の魅力を発信</li> </ul>	<p>学後のミスマッチがないよう発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域イベントへの参加、生徒作品の寄贈の実施</li> <li>・各種コンテストの上位入賞や難易度の高い資格取得</li> </ul>		<p>して、フェースシールド、マウスシールド、「飛びません太郎」の製作で、小中学校をはじめ地域へ貢献活動を行えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リヤカーを製作し、災害ボランティア活動に寄贈した。</li> <li>・甲種危険物等の上級取得者を出すことができた。</li> </ul>
保健管理	部活動の振興	魅力ある部活動づくりとその活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の加入率85%以上</li> <li>・各種大会において上位入賞と九州・全国大会出場</li> </ul>	<p>部活動指針にもとづき長・中・短期の目標を明確化し計画的活動の実施</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育系部活動加入率は71.5%と昨年度より18.5%減少している。文化系部活動への加入状況が増加し、部活動全ての加入状況はほぼ100%となっている。</li> <li>・今年度は多くの大会が中止となる中、全国大会の代替大会に出場したレスリング部が個人戦で3位入賞を果たした。他の競技においても上位入賞は果たせていないが、着実に力を付けている。引き続き指針にもとづき計画的に活動を実施していきたい。</li> </ul>
		部活動における安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康観察の実施</li> <li>・活動場所の安全管理と整理整頓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動顧問会で情報を共有し安全管理に取り組む。</li> <li>・月ごとの活動計画を明確にし、週1日以上以上の休養日を設ける。</li> <li>・各部の代表者に救命講習を受講させ、生徒相互の安全意識の向上を図る。</li> </ul>	B	<p>部活動顧問会を行い、新型コロナウイルス感染拡大防止など情報の共有に心がけた。</p> <p>部活動毎の活動計画を作成し、今年度は生徒の健康観察を行いながら中・長期的な計画目標に沿って活動することができた。休養日を1日以上設けることにより、活動内容の見直しや改善・検討等が必要と考えられる。</p>
	安心安全な学校づくり	安心安全な学校作りのための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全点検」の実施</li> <li>・飲料水（冷水機）の水質検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回の「安全点検」の実施と必要に応じて事務室へ整備・修理等の依頼</li> <li>・毎日、飲料水（冷水機）の水質検査を実施</li> </ul>	B	<p>安全点検は毎月1回実施を目標にしていたがなかなか実施できず、回収率も3割という結果に終わった。しかしながら、水質検査は毎日、実施することができた。コロナ感染防止対策は、十分実施できた。</p>

心身の健康を育む	健康に対する意識や自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日の「健康観察」の実施</li> <li>・ 保健だより等で健康に関する情報提供</li> <li>・ 部活動生（主将・マネージャー）への救急処置講習会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎朝「健康観察カード」の提出時に担任と生徒の心身の健康について情報の共有化</li> <li>・ 「保健だよりコンクール」での連続入賞</li> <li>・ 体育会系部活動生（主将・マネージャー）への救急処置法講習会の実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎朝、健康観察カードの提出時に担任、副担任と生徒との情報共有を行い、早期把握を行うことができた。</li> <li>・ 「保健だよりコンクール」では今年度も優秀賞を受賞することができ、7年連続の入賞を果たすことができた。</li> <li>・ 体育会系部活動生の救急処置講習会は、コロナの影響で実施することができなかった。</li> </ul>
	特別支援教育を含めた相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を持つ生徒・支援の必要な生徒の早期発見・早期対応</li> <li>・ 特別支援教育に関する職員の共通理解と実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員研修の実施</li> <li>・ 生徒状況把握のための各種調査の実施</li> <li>・ 特別支援教育支援員による生徒支援の充実</li> <li>・ 組織的な支援体制の構築に向けた検討</li> <li>・ SC・SSWや関係機関との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援教育支援員の配置により、対象生徒の学習状況や進路決定に大きな成果があった。</li> <li>・ SC、SSWと緊密に連携し、困難事例について関係機関との連携にもつながった。</li> <li>・ 特別支援教育委員会の役割は前年度より明確になったが、組織的支援体制の構築は引き続き課題である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自尊感情を高めるための取組及び他人への思いやりを持つ生徒の育成</li> <li>・ 命あるすべてのものを大切に育む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いのちを大切に育む教育の実施</li> <li>・ ストレス対処教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年対象の講演会の実施</li> <li>・ 相談室だよりを活用したストレス対処教育の実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生のみの実施となったが、講演会后命の大切さを実感したという生徒が多数いた。</li> <li>・ LHR実施日に合わせて相談室だよりを発行し、ストレスやストレス反応、コーピング等に関する情報を発信できた。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価

本年度、学校の教育活動においては、概ね高い評価をいただき、特に、「本校はボランティア活動に参加し、地域との連携の一翼を担っている」、「適切な進路指導やキャリア教育がなされている」、「感染症予防における健康管理が適切に行われている」、「学校行事は特色を生かし適切に行われている」の項目で評価が高かった。

一方、「職員は玉手帳の指導を適切に行っている」の項目でやや低い評価であった。

意見としては、「今年度変更したアンケートは大変やりやすく、また生徒への調査も行われていたので、今後の学校運営に必ず生きてくるはず」、「新型コロナウイルス感染防止のフェースシールド、マウスシールド、飛沫防止間仕切り製作や豪雨被災地へのリヤカー製作、贈呈を行ったボランティア活動により、生徒たちの自己有用感は確実に上がってくる」、「今年度出席率が99.3%に上昇していることは、学校が楽しく仲間や先生方との好ましい関わりの結果と考える」、「地域に根ざした教育を、ものづくりを通して実施しようとする学校の意欲を強く感じる。今後さらに継続されて、地域に貢献されていくことを望む」等の評価をいただいた。要望としては、「生徒募集に関しては、コロナ禍の中でPRが難しかったことと思う。また、荒玉地区全体が定員割れの厳しい状況にあるなかで、本校では今後女子生徒の確保に努めることを前向きに検討してもらいたい。企業においても女性の活躍が注目されている」などの意見をいただいた。

こうした意見を真摯に受け止め、今後も教育活動の充実に向けて取り組んでいきたい。

## 5 総合評価

### (1) 全体について

自己評価においては、9個の大項目に対して27の具体的目標及び方策を設けて評価を行った。結果は、A評価が9個(33%)、B評価が18個(67%)、C評価、D評価は0であった。昨年度23の具体的目標及び方策と比較するとA評価の割合は3ポイント増加、B評価の割合は1ポイント増加、Cの割合は4ポイント減少であった。具体的には、学校経営、いじめの防止、安心安全な学校づくり、命を大切にする取組において改善している。

学校評価アンケートのまとめでは、本年度新たに作成した「玉名工業高校に入学して良かった」という生徒の割合は93%、また、「自分の子どもを玉名工業高校に入学させて良かった」という保護者の割合は97%で、生徒、保護者ともに高い評価であった。

### (2) 本年度の重点目標について

#### ア 安心安全な学校づくり

##### ① 防災教育、安全教育の推進

コロナ感染拡大防止により、学校全体が集まる機会をほとんど中止したため、防災行事についても縮小せざるを得なかった。しかしながら、今年度県内をはじめ災害時の機会を捉えて、担任を通じて防災教育を実施し真剣に考える機会を設けることはできている。また、学校評価アンケートにおいて、「本校は交通事故防止教育に力を入れている」と、生徒、保護者、職員からも高い評価を得ている。コロナ対策も十分実施し、最小限に抑えることができた。

##### ② 不祥事ゼロ+いじめゼロ+生徒・職員の交通事故半減

日頃から機会を捉えて職員研修を実施し、不祥事を許さない風土づくりと働きやすい職場環境を作り上げていこうと全職員で共通理解を図っている。今年度、本校職員の不祥事は起こっていない。また、交通事故においては生徒、職員共に昨年度よりも激減しており、重傷事故も発生していない。交通事故防止に対する意識の向上を感じている。

##### ③ 5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の徹底

これまでも5Sを掲げていたが、ある面で形骸化している状況が見られた。今年度「働き方改革支援アドバイザー事業」の県指定を受け、アドバイザーよりまずは整理整頓の必然性を求められ、一気に学校がそこに向けて動き始めている。学校の書類、施設設備、道具、荷物等の整理整頓から働き方改革に重要な職員の一体化、仕事の効率化、行事の精選等につなげていこうと改革を進め、生徒への指導の共有も行いながら推進している。

#### イ 夢を実現する学校づくり

##### ① 授業の充実

新学習指導要領に向けた授業改善は、コロナウイルス感染拡大防止により対話的な学習は実施しない方針で行ってきたため、あまり進んでいない状況にある。そのため学校評価アンケートによる「教え方の工夫により授業がわかりやすい」においては、生徒、保護者ではあまり芳しくない評価である。しかし、「工業教育の推進」については、生徒、保護者、職員の評価は高く、今後は普通教科の充実が求められる。

##### ② 進路決定100%

3年生においては、学年部、各工業科、進路指導部が生徒、保護者と連携し進路指導を行ってきた結果、2月末現在1名の大学受験者を残し全員の進路が決定している。ただし、学校評価アンケート「生徒の進路目標達成に向けた努力」においては、保護者の評価は芳しくない評価である。宅習時間不足と関係があると考えられる。

##### ③ 入学志願者確保

コロナ禍により志願者確保のための取組は、必要最低限を余儀なくされた。しかしながら、ホームページの充実や更新数は昨年をはるかに超えて行うことができた。残念ながら後期選抜入試において志願者数が定員を超えることはできなかったが、全県下における志願状況から考えると本校はかなり健闘していると言える。

##### ③ 資格取得の推進

コロナ禍により多くの資格試験が中止となったため、予定していた受検ができなくなり例年よりも資格取得数は減少した。しかし、それに向けた取組は行うことができていた。

## 6 次年度への課題・改善方策

### (1) 学校経営

本校職員の超過勤務時間は、なかなか減少傾向に至っておらず、今後超過勤務時間縮減のために働き方改革の推進が求められる。そのために、外部からの指導や職員からの意見を吸い上げながら、積極的に推進していくよう今年度立ち上げたSKプロジェクト委員会を定期的に開催して校務改革を図っていく必要がある。

### (2) 授業改善と学力向上

コロナ禍により今年度は進められなかった「主体的、対話的で深い学び」を取り入れた授業改善を行っていく必要がある。そのために、教務部の授業改善担当を機能させていく必要がある。また、「学びの基礎診断テスト」や授業評価アンケートを実施、分析することで課題を洗い出し、学力向上につなげていくよう求められる。

(3) キャリア教育の充実と進路決定

生徒が玉工手帳を積極的に活用するよう、学校全体で取り組んでいくことが大切である。そのために、外部の人材を活用し助言を仰ぎながら進めていくことも視野に入れておく。進路指導においては、例年6月に予定されていた3年部の進路説明会が実施できず、生徒、保護者、学校との共通理解が深まらなかったケースもあったので実施が望まれる。

(4) 生徒指導の充実

今年度は、「未然防止」をキーワードに進めてきた結果、交通事故や服装頭髪違反、遅刻等は減少した。しかしながら、生徒指導件数や交通違反件数は昨年度とほとんど変わらない状況であった。県指定「SOSの出し方に関する教育」に取り組む中で、それらとも関連させ学校あげて「心の育成」を行っていく必要性を感じる。

(5) 工業教育の推進

コロナ感染防止とものづくり、ボランティア、地域貢献、被災地支援等を絡めた取組を実施し、本校の魅力をホームページやマスコミを通じて発信させることができた。ピンチをチャンスに変える発想を持ち、社会や地域の情報収集を行い積極的な姿勢で可能なものづくりを実現していくことが重要である。